

特集「脳卒中診療アップデート」

巻 頭 言

京都府立医科大学大学院医学研究科
脳神経機能再生外科学

橋 本 直 哉



昨今の臨床専門領域では年に1回の学会に出席しても内容を理解できない。これはおそらく脳神経領域に限ったことではあるまい。

本誌では2018年6月の第127巻6号において、脳神経内科の水野敏樹教授の編集により「脳卒中診療の新たな変革」と題された特集が組まれてから3年の月日が経った。水野教授が巻頭言に記載されているごとく2015年ごろを境とした脳梗塞急性期治療の変革、すなわち血栓回収術の進歩を主題とした、内容が深く意義ある特集であったと思う。3年の月日にはさらにエビデンスレベルの高いランダム化比較試験の結果が発表され、血栓回収術の脳梗塞急性期治療も確実に進歩している。また特集号発刊の半年後の2018年12月には「脳卒中・循環器病対策基本法」が成立し、2020年10月には「脳卒中と循環器病対策推進基本計画」が閣議決定、都道府県レベルでの脳卒中对策が前進の最中にある。

さらに特筆すべきは、これらの学術・社会動向に歩調を合わせるように、京都府立医科大学

附属病院に脳神経センター（脳神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科48床）が開設され、2022年1月からは「脳卒中ケアユニット：Stroke Care Unit (SCU)」(6床)が脳神経センターに包括され本格的に稼働する。SCUにおいて脳卒中の管理を行うことは、その治療成績を大きく向上させることは広く知られており、SCUでの24時間365日の脳卒中との戦いがまさに繰り広げられようとしている。これは、個々の患者さんとそのご家族に大きな恩恵をもたらすばかりでなく、世界トップレベルの脳卒中医療を地域へさらに展開することに等しい。

上述のような背景から、本特集「脳卒中診療アップデート」を企画した。冒頭の脳卒中医療体制・SCUの役割から始まり、最新の画像診断、国民の病・がんとの関連、外科治療、血栓回収術、リハビリテーション、高次脳機能障害まで、本学のエキスパートにご執筆いただき、脳卒中領域のアップデートすべき領域は網羅できたのではないと思う。京都府立医科大学雑誌の読者の方々の、日々の診療（臨床）・教育・研究に少しでもお役に立てば幸いである。



脳卒中ケアユニット (SCU)



脳神経センターに併設のリハビリテーションルーム